

新学生部長に聞く

「専大生よ、元気になれ」大学は自己実現を支援

嶋根 克己文学部教授



学生部長就任にあたって定めたテーマは、「専大生を元気にしよう」。

「小さなことにこだわらず、自信を持って物事に挑戦していく勇氣と行動力を持ってほしい。失敗を恐れず頑張る専大生を学生部一同、大いに応援します」

「どのように生きていくのか——。その答えは、簡単にはみつからない。私の『青春』を振り返っても試行錯誤の連続でした。しかし、挑戦を続けなければ自己実現への道は開けない。大胆なチャレンジは、可能性を秘めている学生時代にこそ」と強調する。

加えて身につけてほしいのは、コミュニケーション能力。「さまざまな状況に直面する社会において、しなやかに適応できる『人間力』を持った大人になってほしい」。

学生部の奨学金制度や課外プログラムは、そういった自己発見、自己実現への支援体制を備えているのだが、「制度を上手に利用する学生が少ないのが残念。大学を使いこなす“良き消費者”になってほしいですね」。

文学部社会学専攻の教授として、「現代文化論」などを担当。“大量死”や“葬送儀礼”をキーワードに、「現代の死生観」を研究テーマにしている。

大学3年の時、オートバイ事故で、全治3カ月の重傷を負った。気を失ったその瞬間、それまでの人生がフラッシュバックする臨死体験に遭遇した。

「死」は身近なもの、「生」は決して永遠ではない——。「生きている」時間を大事にしなければならないという思いが、人生に対する見方を変えた。「悔いのない人生のために、なにをするのかを考えるようになりました」。

ストレスの解消法は身体を動かすこと。水泳、自転車で汗を流す。武道の非日常性を心のよりどころに。空手道、杖道ともに三段。空手部の部長を務める。

※2007年4月から学生部長。任期は1年間。

「キャリア支援公開講座」スタート

若手会計士が語る今どきの社会常識

キャリアデザインの一助に

新日本監査法人の協力を得て、ビジネスの現場で活躍中の若手会計士が新聞などで取り上げられる重要かつ最新のトピックスを毎回交代で分かりやすく解説するキャリア支援公開講座がスタートした。

4月26日の講師は、本学在学中に公認会計士試験に合格した須藤修司さん(昭62経営)。現在は、本学経営学部及び早稲田大学大学院ビジネススクールの非常勤講師も務めている。



▲監査法人の業務の多彩さを講義する須藤さん

須藤さんは、「企業の目的とは、企業価値の向上である。経営活動の結果としての財務諸表公開のほか、ガバナンス・コンプライアンスへの取り組みやIR活動を含めた活動が、企業価値向上に求められるようになってきており、監査法人は、その点でも重要な役割を果たすようになってきた」と、監査法人がこの講座を担当する意義や講座のアウトラインを説明した。

今後、「企業再生とデュー・ディリジェンス」(5/24)、「リスクマネジメント」(6/7・14)、「環境会計」(7/12・19)など興味深い内容が用意されている。毎週木曜、18時30分～20時に神田キャンパスで開講中。電話 044(911)7189 キャリアデザインセンター

☆☆☆☆☆

キャリアデザインセンターでは、「ファンドマネージャー専大グランプリ」「ベンチャービジネスコンテスト」「インターンシップフォーラム」「キャリアカウンセリング」など、キャリア形成に関連するさまざまな企画を実施している(一部企画中のものもあり)。情報はホームページで確認を。

情報科学研究所に川崎市産業振興財団から表彰盾

昨年、ネットワーク情報学部と共同で「テクノトランスファーinかわさき」に出展するなど、産学連携活動に力を注いでいる情報科学研究所に対し川崎市産業振興財団から4月24日、表彰盾が授与された。同財団の「産学連携ニュースレター」には本学教員3人が既に掲載されており、櫻井亨産学連携担当副主幹、横井文良課長と綿貫理明所長、小林隆教授、上平崇仁准教授は、今後の更なる協力を約した=写真。



《New Ground—新しい見方<13>》

新年度

島 太一 (文3・ジャーナリズム研究会)

新1年次生の入学、10号館OPENなどなどのイベントで、例年以上に慌ただしかった4月が終わった。履修登録やサークルの新歓も一段落し、講義もそれまでのガイダンスの内容を経て、本格的に始まった。新生たちも、だいぶ大学生活に慣れてきたようだ。

大学というものは、高校までの各教育機関とは一味違う、ということを何度か聞かされてきたかと思う。話す人によってどのような言葉で表されるのかはまちまちだろうが、端的に言えば大学生というのは「自由」なのだ。

必修という枷(かせ)はあるものの、どの講義を履修するかは基本的に自由だし、講義のない時間に何をしようが、——サークルの部室でたむろしてようが、友達とその辺をうろろしてようが、一人でたたずんでいようが——何の問題もない。たとえ、出席を取らないから、などといって講義に出なくとも、それを咎め、戒める者は誰もいない。後に単位が取れなくて後悔するのは自分だということは分かっているだろうに。

「自由」というものは、自らを律することができてこそ、その身に享受できるものである。己の行為を省み、必要とあらば自らを戒める。一時の享楽に身を委ねるのみでは、そうしたことも行うことはできない。そのことを、学生諸兄はよく理解しておくべきだと思う。特に、休み明けはそういった意識が薄れがちである。生活にメリハリをつけて、大学生活を有意義なものにしていこう。



▲生田10号館で(記事との関連はありません)

07年度学生団体役員紹介

【神田学生自治会】

委員長 榎 洋介(法4)

会計主任 植野 嘉文(法3)

【生田学生自治会】

委員長 小野 卓(商4)

会計主任 重田 貴昭(経済4)

【学術文化会本部】

5月15日現在未届け

【連合県人会】

委員長 後藤 崇(商4)

副委員長 高橋 達也(商4)

【体育会本部】

委員長 宮本 伸一(経営4)

【二部学生会】

委員長 薄羽 浩之(経済4)

副委員長(外務)

藤枝 恵介(経済4)

副委員長(財務)

佐々木 仁人(経済4)

《マンガ》

もう登ってるぜ

(漫画研究同好会・ブチャラティーツ作)

